

# みえの学力向上県民運動 基本方針

令和2年11月改訂

三重県・三重県教育委員会

## <基本理念>

急速な技術革新やグローバル化、新型コロナウイルスのような新たな感染症への対応など、将来の予測が難しい社会にあって、次世代を担う子どもたちには、想定外のことと向き合うことを恐れず、自分で課題を見つけ、挑戦していく力、他者と協働しながら課題を乗り越え、新しい価値を作り出す力、周りを幸せにしようとする気持ち、主体的に社会に参画する力が求められています。

子どもたちは、一人ひとりかけがえのない大切な存在であり、将来、地域で輝き、世界で活躍する姿は、私たちの希望であり未来です。家庭の環境や障がいの有無、国籍等に関わらず、全ての子どもたちがその可能性を最大限に発揮できるよう支えていくことは、子どもたちに関わる全ての大人の役割と責任です。子どもたちは大人を見ており、「子どもの問題は、大人の問題」です。

このため、教育関係者のみならず、全ての県民が教育の当事者としての自覚を持ち、「毎日が未来への分岐点」という思いのもと、それぞれの役割を果たし、子どもたちと向き合っていく「みえの学力向上県民運動」を「オール三重」で進めていきます。

## <取組の視点> みえの学力向上県民運動は、次の3点を取組の視点として進めます。

### 1. 「主体的・協働的に学び行動する意欲」を育てます

- ・子どもたちの学力の育成にあたっては、学習指導要領を踏まえ、「何を理解しているか・何ができるか」（知識及び技能）、「理解していること・できることをどう使うか」（思考力、判断力、表現力等）、「どのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るか」（学びに向かう力、人間性等）といった視点を重視し、総合的に捉えていく必要があります。
- ・そのため、学校では、子どもたちが日々の学習と実生活や自分の将来との関係に意義を見いだしたり、課題の発見と解決に向けて、他者と協働し、自らの考えを広げ深めたりするなどのプロセスを大切に授業改善や、子どもたち一人ひとりの状況に応じたきめ細かな取組を進めます。

## 2. 「学びと育ちの環境づくり」を進めます

- ・子どもたちが、学校・家庭・地域でのさまざまな学びの場をとおして、「わかった！できた！」という達成感を積み重ね、自尊感情・自己肯定感を高めることができるよう、多くの大人が子どもたちに関わり、励ましながら、子どもたちの学びと育ちを支えることが大切です。
- ・「教育の原点」である家庭教育を応援する取組を進め、スマートフォンの使用等について家庭で話し合っ規則を決めて守ったり、学習時間を確保したりするなどの自己管理能力を育て、生活習慣・学習習慣を確立します。また、家庭の状況により、対応が難しい問題については、地域による学習支援や居場所づくりなど、地域の多様な資源を最大限生かしながら、地域で支える体制づくりを進めます。
- ・新型コロナウイルス感染症防止対策を徹底するとともに、ICT環境の活用や子どもたち一人ひとりの状況に応じた支援等により、学びの継続に取り組みます。

## 3. 「読書をとおした学び」を進めます

- ・子どもたちは、「読書」を通じて、新しい世界を知り、感動し、自分なりの考えを持つことができるようになります。読書経験を積み重ねていく中で、感性を磨き、判断力を伸ばし、表現力等を高めるとともに、コミュニケーション能力の基礎を築いていきます。また、多くの知識を得たり多様な文化に触れたりすることにより、生涯にわたって自発的に学習する習慣を身につけていきます。
- ・そのため、発達段階に応じて読書習慣を身につけることができる取組や、学校・家庭・地域のそれぞれの役割に応じて読書を行う環境の整備、読書をする機会の提供、読書活動の啓発等、子どもたちの生涯にわたる読書習慣を確立するための取組を進めます。